

平成27年度第2回
大川水系外、伊里前川水系外、
雄勝・牡鹿・女川圏域外及び坂元川水系河川整備学識者懇談会

第1回河川整備学識者懇談会での意見に対する対応について

平成27年12月22日

宮城県土木部河川課



項目	意見	対応状況
環境	生態系への役割が非常に大きい干潟・砂浜も堤防の対象になるが、できるだけ残すという整備方針が大事。	動植物の生態をよく把握し、現在のみお筋や瀬・淵、河畔林を極力保全します。また、動植物の生息・生育・繁殖環境の保全に配慮した整備を行います。干潟・砂浜についても同様に保全に配慮した整備を行います。
その他	優先順位や緊急度を各流域・圏域、あるいはスポットごとに抽出して、早くやるところとゆっくりでもいいところを分けて効率よく進めてほしい。	各河川毎に優先して整備する区間を設定します。
その他	震災による人口変化や新しい都市計画は、河川堤防を整備していくうえで非常に考慮しなくてはならない。新しいまちづくりとリンクした防御計画・方法などを考えてほしい。基礎データとして、震災後の人口動態、まちづくり計画といったものをこの資料に盛り込んで位置づけることが大事。	復興まちづくりと連携し、各市町の震災復興計画の理念や目標をふまえて、被害軽減対策を進めていきます。

項目	意見	対応状況
環境	BODや水生生物保全のための環境基準は数値に問題はないが、1つの側面として押さえておきたい。個別に貴重種の調査をするなど、河川個別に対応が必要になると思う。	環境調査を実施し、貴重種への対応などを検討し、河川毎に対応します。
環境	坂元川はほかの河川には入っていない水質の維持改善という言葉がはいつている。具体的に何をするのか。	水質の改善を具体的に実施するわけではないため、文言を修正します。
その他	二級河川は県の管理だが、流域が岩手県や福島県に入っている。他県のその部分はどのように取り扱われるのか。	他県は、関係機関の一つとして意見調整を図っていきます。宮城の話が中心となるので、宮城県で原案をつくりませんが、他県とも調整を図ります。

項目	意見	対応状況
環境	河川から海に向けての連続性のある環境が大事。人間の都合だけを最優先にして改変してはいけない。自然の連続性・不均一性を壊すのはよくない。	河川は、上流から河口まで連続性があることから水量、水質、土砂、動植物の生息域など流域全体をとらえて河川整備を行っていきます。
環境	人間社会を守ることは非常に大事だが、堤防や河川整備の作り方・自然への介入の仕方を工夫していくことが大事。どこに作るか、生態系を壊さないようにどのように作るかが大事。	魚類をはじめとする動植物の生態をよく把握し、現在のみお筋や瀬・淵、河畔林を極力保全します。また、動植物の生息・生育・繁殖環境の保全に配慮した整備を行います。

項目	意見	対応状況
その他	治水・利水・環境のバランスが大事だ。管轄が国や県市町村に分かれて縦割りになっているが、総合力を持って復旧・復興を進めてほしい。県の計画なので、少しでも横のつながりを入れてほしい。	例えば、渇水時には関係機関と対応しながら進めるなど、横のつながりを意識しながら進めていきます。
その他	「基本的な考え方」では治水・利水・環境がバランスよく書かれているが、「目標」では治水がかなりの割合を占めている。利水の書き方も検討してほしい。そのほうがバランスが取れる。	目標については、治水、利水、環境の各機能のバランスを保ちながら計画を策定しています。

項目	意見	対応状況
その他	地域を見直したり、流域の統合的な管理をするなど、ビジョンを計画に盛り込んでほしい。	各圏域毎に治水, 利水, 環境に対する基本的な考え方を取りまとめ, 計画に位置づけます。
その他	事業を進めていくうえで、地域と行政の合意形成を大事にしてほしい。また、進行に合わせて振り返りも行い、議論を入れ込んだ計画づくりをしてほしい。	津谷川のワークショップ, 女川の川まちづくりなど地域の関係者の意見を取り入れた河川整備を進めていきます。 社会情勢の変化等を踏まえ, 必要に応じて計画の見直しを行います。

項目	意見	対応状況
その他	<p>鮭の孵化場があり、稚魚を放流して収穫も順調だが、河口堰の防潮堤工事によってどの程度影響があるのか関係者に心配されている。</p>	<p>工事の進め方や施工計画等について、漁協に説明しながら進めていきます。施工時における汚濁防止フェンスの設置等、水質汚濁へ配慮します。</p>
その他	<p>河口部での桜並木は名所だったが防潮堤工事で伐採された。仕方がないが、今後はどのように整備されていくのか。</p>	<p>大川の桜については、災害復旧工事に伴い支障となることから、「気仙沼大川桜並木を保存する会」主催で伐倒式が行われ、仮移植しました。仮移植した桜は災害復旧工事完了後に河川堤防背後に移植します。</p>
その他	<p>鹿折川水系は昔から子供や地域住民が川と密接にふれあってきた。ほとんど防潮堤で囲まれてしまって、子どもたちが遊ぶ場所が確保できるのか。 子供や老人が防潮堤から転落した場合、救済するだけの足踏みやステップはあるのか。</p>	<p>震災前より親水性の階段として利用されていた右岸側の2箇所については復旧する予定。なお、災害復旧区間については、管理用及び安全性への配慮として約200mに1箇所の階段工の設置を予定しています。 今後、工事説明会時における住民意見や治水上への影響等も踏まえながら対応を検討していきます。</p>
その他	<p>市民への情報提供をもう少し細やかにすれば、市民も安心・納得しながら整備を見守っていくのではないかと思います。</p>	<p>整備の状況については、ホームページや復興だよりといった様々な媒体で情報提供します。</p>
その他	<p>せせらぎ公園の活用は今後どうなるのか。</p>	<p>河川公園は、基本的には自己責任の範疇での使用となるが、今後も河川管理の充実強化を図り安全性を確保するとともに、公園内における危険区域の掲示等も検討していきます。</p>

項目	意見	対応状況
治水	被災地住民の願いは安全の確保、財産の確保である。	各河川毎の目標治水安全度を確保するべく、洪水流量を安全に流下させるため、河川整備を進めていきます。
治水	洪水による被害も、津波と同じくらい大きくなることもあると思う。被災地の海岸・河川復旧だけでなく河川周辺の住民・地域を安全に守れるように整備してほしい。	

項目	意見	対応状況
環境	陸と水域の連続性の部分は市民の関心が高い。広範囲は無理でも小さくスポット的にでも、何か楽しんで工夫できるエリアをつくってほしい。	環境学習，水辺ふれあい活動，河川清掃などのボランティア活動を様々な主体と協働しながら実施できる場を提供します。
その他	河川整備の専門的なところと、市民参加ができる部分を整理してほしい。	河川情報の住民への提供といった地域との情報共有化を図りつつ，計画策定時には，公聴会の開催等住民意見を反映した計画づくりを行います。
その他	河川整備で、具体的な情報共有や管理体制など、踏み込んだ内容をつくるときには、市民が参加できる形で一緒に考えることができるとよい。	
その他	学校と組んで子供たちと一緒にプランニングをつくるという取り組みもぜひ力を入れてほしい。	子供たちも含めた環境学習など，河川愛護の普及と啓発に努め，良好な河川環境を保全していきます。
その他	地域ごとに状況は違うので、地域の防災に関して具体的な計画作りをするときは、地域住民が細かく踏み込める仕掛け・きっかけづくりを検討してほしい。	ハザードマップの利活用をきっかけとし，住民のマップ利用促進や住民による地区防災マップづくりの支援を行います。

項目	意見	対応状況
治水	東日本大震災のときは津波が川をあげてきた。	津波や高潮からの被害を防止，軽減を図るために河口部にはL1津波に対応した堤防を整備します。
治水	坂元地区では排水が問題になっている。雨があふれる。地域住民が困っていて、避難をすることもある。排水を考慮して計画をしてほしい。	内水排除については，復興まちづくりとあわせて町や関係機関と調整を進めていきます。
環境	震災後、魚が釣れにくくなっている。昔よりも魚の種類が減っている。	環境の変化については，モニタリングしながら，各分野の専門家，学識者より助言・指導をいただきながら動植物の生息・生育・繁殖環境の保全を図ります。
環境	川をきれいにしてほしい。子供たちが河辺に近寄れるように堤防勾配を緩くし、安全に遊べる川にしてほしい。	人々が水辺に近づける親水護岸を配置し，一層の利活用の促進を図ります。
環境	県でも河辺の緑を増やしてほしい。	在来植樹の生息環境の保全を図ります。



復興加速実感年
創造的復興へ
ステップ・アップ!



宮城県公式キャラクター「むすび丸」

宮城県土木部

新生宮城の発展に向けて

**復興加速
復興実感**

宮城県土木部

がんばるっちゃ!

**復興へ
頑張ろう!
みやぎ**



むすび丸